

### 行田まちあるき(その3) TEKUTEKU 活動報告

日 時 ●2009年5月16日(土)11時～17時

企画概要● 昨年6月と今年の2月に「足袋蔵のまち行田の中心市街地活性化を考える」をテーマに実施しました行田まち歩き企画の第3弾です。

今回の企画は、NPOぎょうだ足袋蔵ネットワークが毎年開催している「行田蔵めぐりまちあるき」～蔵めぐりスタンプラリー2009に参加し、普段は閉じられている16の蔵をめぐり、最後に、NPOぎょうだ足袋蔵ネットワークの皆さんとの意見交換をしました。

開かれた16の蔵●1足袋蔵まちづくりミュージアム、2忠次郎、3牧禎舎、4足袋と暮らしの博物館、5武蔵野銀行行田支店、6足袋蔵ギャラリー門、7大澤商店、8奥貫蔵、9舞原蔵、10イサミスクール工場、11十万石本店、12小川源右エ門蔵、13新町区自治会館、14今津蔵、15翠玉堂、16保泉蔵、(閑居で意見交換会)

参加者 ●浅倉昌美、井手幸人、石川修、大熊孝、大竹亮、大森享、梶川義実、加藤栄子、黒澤学、桑田仁、佐藤晶子、持齋康弘、鈴木康二、須藤充子、遠井文大、時田芳文、中村隆夫、並木孝之、西尾、西藤大真、蓮池公子、長谷川万里子、平野隆、藤林、前田、若林祥文、ほか コーディネーター:古里実

協力● NPO ギョウダ足袋蔵ネットワーク(朽木宏さん、中島洋一さん、坂田さん、森田さん、金子さん、大木さん、江袋さん、久保田さん、藤間さん、宮本さん)

#### 【参加者による評価】

(評価点の計算:とても良い A=5 点、良い B=3 点、普通 C=1 点、良くない D=1 点とした平均値)

#### (1)足袋蔵めぐり全体の感想 AAAAAAAAAABBBBBBー【4. 3】

A:住民方々のおもてなしに感激しました。これも粘りづよくこうした企画を続けられてきた、ぎょうだ足袋蔵NW+商工会議所等のみなさまの成果かと思います。古い建物の保存と、併せ今後建て替えられるであろう建物との融合をどの様に調整していくかが大きな課題ではないかと思います。

A:1回目より2回目、3回目のほうが、まちが素敵に感じられました。まちづくりミュージアムなどがきれいに改修されたこともあると思いますが、迎える人たちの誠意とか暖かさがだんだんと伝わってきているからだと思います。

A:とても楽しかったです。地図に沿っていくと、たくさんの蔵が開かれ、それぞれ工夫をこらした催し物が迎えてくれました。以前に歩いた時には、こんなにたくさんの蔵があるとは気がつきませんでした。地元のたくさんの人たちが取り組んでいて、心強く思いました。

A:参加した多くの人が楽しんでいた。街の方々もホスピタリティにあふれていた。蔵巡りは、蔵の中を見ないとおもしろくない。

A:蔵めぐりは持ち主の方が中を見せてくれ、お話を聞けるのが良い。忍城の遺構とまちの成り立ちが、まちを歩きながら知ることができるともっと歴史のロマンを感じられると思う。

A:今まで行田について特にイメージを持っていませんでしたが、行田と言ったら「足袋と蔵とゼリーフライ」であると新たな発見が出来たことが非常に良かったです。また、ただ蔵を巡るだけではなく、巡りながら足袋の勉強が出来たり、美味しいものを食べながら休憩が出来たりと街全体がこのイベントに対して積極的であった点が街の賑わいを醸し出していたのだと感じました。

A:ちょっと中心から離れたエリアにもまだまだ知らないものがあつた。曲がった路地の雰囲気が良い。

A:今年は参加者が多く、町の中を歩く人が多く、よかった。

A:歩道の随所にある装置の箱のカバーの人形や、ペリカンの水のみは歩くだけで楽しかった。高い建物がなく空が広がった。

A:前回の古墳だけより、資料館やじっくり建物など見られて行田に来たなあという実感がありました。道の端を歩く癖があるので犬のフンの始末の悪さが気になりました。

B:単に市街地にある蔵をめぐり歩いただけでなく、各蔵で様々な催しが実験的に行われており、次はどんなことが待っているのかなと期待させるワクワク感が効果的だったと思う。また、今回は各種店舗などとタイアップしたことにより、お得感が味わえた。イベントのあるなしに関わらず、日常的にああいうことができているとすれば素敵な街になれると思う。

B:主催者のイベントを盛り上げようとしている意気込みに感激した。しかし、ただ歩かされている感じのところもあり、道中で楽しめる仕掛けが必要では？（「ここまで歩けば何かがある」といった・・・）

B:毎年工夫がこらされている。大変良いと感じたが、途中途中に、自由に座れる休憩スペースがもう少しあるとよい。

B:行田に久々に出没。何より親近感のあるイベントをしている所が良かった。イベント規模がアットホームさをもたらし、大げさでもないところが、今の行田らしいのかな。と感じました。やはり、月並みですが、この街の活性化には、イベントを続けていく事が必要なのだという事を経験する事ができました。一人で街歩きできる街としては、まだまだ未熟で、イベントを通して目に触れる事から始める必要があると思います。

B:今回は、閑居でお話しさせていただいたように、「景観」の観点から歩いてみました。イベントとしては手作り感に溢れ、また例年以上に地域全体で取り組まれており、ゆったりと楽しめる感じでした。イベントとしてはこれは良いのではないかと思います。県や市が必要以上に介入して商業的イベントに変化してしまうのであれば、それは良くない気がします。街並み（景観）としては取り立てて魅力を感じない。点在している資源を活かすために、もう少し点を線にする工夫が必要だと思う。これには行政や商店会のバックアップが必要かもしれない。

## (2)特に魅力的だったところ(いくつか)

○今津印刷のおばあちゃんと＋休憩所:この町の魅力をよくご存知のおばあちゃんの話とそのわきの手作り休憩所はとても印象に残りました。

○今津蔵:城下町時代からの歴史ある印刷工場の様子がわかりました。横の空き地での無料休憩所(お茶のサービス付き！)は心休まる場でした。

○今津蔵:印刷所の古い活版印刷機などを展示をおばあさんが明るく一生懸命説明してくれた。休憩所もホスピタリティあふれていた。

○今津蔵:おばあさんの熱心な説明。



○今津蔵:「20歳で嫁に来て68年」のおばあちゃん。

○大澤蔵で見たスライド:昭和28年のスライドは当時の生活の様子がよくわかり楽しかったです。貴重な資料かと思いますので、うまく保存できるといいですね。

○大澤商店: S28 前後のスライドショーが面白い。

○大澤商店:昭和28年のスライドを一生懸命説明してくれました。

○大澤商店:若いご婦人の方のよく分かっていないながらも説明しようという姿勢

○大澤商店:小さいながら、手入れされた美しい蔵でした。スライドを拝見し、子供の頃に帰ったような気がしました。

○イサミスクール工場:現在も工場として利用されているところがすごい

○イサミスクール工場:現役の工場であり、昔の工場らしさがあつた。社員が昼食から自転車で戻ってくるところなど、昭和30年代のようだった。

○イサミコーポレーション:足袋蔵と比べてここは木造で出来ているため、木の表面や歪曲した窓ガラスなどから歴史を感じられました。そして、内装も昔と変わらない様子であるにも関わらず、いまだに室内で裁縫の仕事が行われているのを見て昔と変わらず歴史が続いているところに驚きました。

○イサミスクール工場:広い敷地に美しい建物がいくつもありました。こうした現役の工場の中にも入れていただいて感激です。

○イサミスクール:敷地も広く、さまざまな建物が建っており、工場建築が大変興味深い。

○イサミスクール工場:古い工場が実際にまだ使われていた。服を生産しているようだったが、足袋は別の工場で作っているのか。(取り扱い品目に足袋もあった。)

○今も活用されているノコギリ工場:いまま繊維関係の工場として活用されているのを見て、この町のDNAを見たという思いになりました。

○八幡神社周辺:初めて行った。他の場所と違い、昔ながらの風情が卡ろうじて残っている。

○足袋とくらしの博物館:色々な足袋やラベルを見られて目にも楽しかったです。「くらし」だからかちゃぶ台やお釜があつたのも面白かったで



す。

○足袋とくらしの博物館:職人さんの実演はいつも興味深い。

○足袋とくらしの博物館:実際の足袋づくりを見ることができた。手間のかかる作業だ。

○足袋とくらしの博物館:やはり足袋製作の動態展示は魅力的です。

○足袋とくらしの博物館:職人さんの働く姿がいつも見られる。やはり常設であることが魅力である。

○栗代蔵(足袋蔵まちづくりミュージアム):きれいに整備されていて驚きました。足袋蔵ネットワ

ークさんの  
改修は徹  
底して木  
材を使用  
されていま  
すよね(構  
造部材の  
ほか、椅子、テーブ



ル、手すりなど)、非常に暖かくて落ち着きが感じられました。蔵のイラストパネルは今年からですか?あれもかわいらしくていいですね。

○ギャラリー門:立派な蔵がいくつも並んでいて、とても風格がある雰囲気です。朽木さんの事務所の内部空間も、いい味が出ていました。

○朽木さんの事務所:おしゃれで居心地のいい空間。古い蔵と、モダンな家具等がいい雰囲気を醸成している。もう一つの蔵や閑居とセットになっているのがまたいい。場所も一等地。

○朽木さんの事務所:さすがにセンスがいい。

○閑居:懐かしい気持ちのいい空間。小物にも気配りが行き届いていて、居心地がいい。庭もきれい。友達を連れてまた行きたい。

○閑居:とても素敵な所でした。建物も風情があり、お庭もきれいでした。ゆっくりくつろぐことができる貴重な場所です。

○保泉蔵の隣の駐車場:荒川の石をテーマにした



ビデオと石のアートをしていた。パン屋の翠玉堂の友達という。

○保泉蔵：奥まったところの小さな蔵は隠れ家のよう。

○保泉蔵：暗い奥へ入っていくと、昔の映像が映し出されていました。ここから始めたので、あたかもタイムトンネルのようでした。

○保泉蔵：昔の映画で行田の様子を知ることができた。蔵は映画上映の場として大変良い。

○牧禎舎：忠治郎蔵となり、三味線の演奏が良かった。

○牧禎舎：和服のご婦人方の三味線の音色。

○牧禎舎：見学していたら突然、三味線の演奏が始まり、とても新鮮な驚きでした。街や蔵の雰囲気から立体的な彩りを添えていました。足袋蔵まちづくりミュージアム：こうした立派な蔵が開放されて拠点になったことで、名実ともに「足袋蔵の街・行田」が広まっていくと思います。

○牧禎舎：前は使われていなかったため、印象が薄かったが、三味線の音色にときめきました。

○翠玉堂：小さなお店でしたが、手作り感があって、とても良かったです。たくさん買ったパンは、歩きながらや帰りの電車で食べてしまいました。

○翠玉堂：パンも沢山買ったのに安かったし、美味しかったです。お店の雰囲気も良かったです。

○忠次郎蔵：お蕎麦も中の雰囲気もステキでした。お店の方の意気込みとてなしの心が伝わってきて、とても幸せな気持ちになりました。

○長井写真館前の通り：通りに残る建物と路地の雰囲気が良い。一番のおすすめ。

○新町会館：蔵造り以外の歴史的建築物もポテンシャルがある。

○昔の映像：昔のフィルムを観て風景、出てくる人たちの着ているものがとても懐かしかった。

○鍵型の路地や、その路地裏の風情：初めて通った道もあり、「こんなところがあったのか」と驚嘆した。普段の車中心の生活では絶対に入っていない場所だ。小鹿野の路地スタのように、行田も路地裏をピックアップ&ブラッシュアップしたらどうか。そこにこそ、まちおこしのチャンスが眠っていると確信する。街自体が持っている雰囲気や、うまく持っていければ大化けしそうなポテンシャルが魅力的。

○舞原蔵：立派な石蔵でした。広場に面して市場のように金魚とかを売っていたのが、ほのぼのとした。

○奥貫蔵：狭い階段から二階に上がると、かつて足袋蔵が使われていた頃のことを想像できました。

○武蔵野銀行：交差点の角にある洋風建築の荘重で格調高い外観から、行田の街の歴史の深みと奥行きを感じることができました。重要な建物です。



足袋と暮らしの博物館：足袋職人の方が、昔ながらの製法で実演しているのを見ることができ、とても興味深かったです。展示も充実していました。

○(番外編)ボンネットバス：ああいうのが行田市中を定期的に走っていると注目度も高まり、「行ってみようか」という気になると思うのですが。

○ボンネットバス：乗り心地はともかく、雰囲気が良い。行田の街に似合います。是非定期運行を期待します。



### (3)まち歩きをしながら商店街等で買った(飲食を含む)ものと、理由、感想など

○翠玉堂のパン：通りの構え、店内の感じと店の方の人柄で、ついつい多く買ってしまふ。

○パン：翠玉堂のパンはいつも買う。

○翠玉堂のパン：若夫婦が建物の景観にも配慮して店を出していたから。

○翠玉堂のパン：棒パンを持ちながら歩いて(フランス風！)、店とイベントの宣伝になったのでしょうか？

○翠玉堂のコッペパン(たくあんサラダのサンド)(¥250)：たくあんに？だったのですが、意外といけます。

○翠玉堂のコッペパン、キューブ形のパン、チョコパン：コッペパンは翌日チンしたらふんわり感が戻って美味しかったです。その場で食べたらよかった。

○翠玉堂のパン：前回も買ったが、とても美味しい

○翠玉堂のパン：やはり旨い(小麦の量が半端なく多い)。

○翠玉堂の麺麴：手作りの雰囲気が気に入ったので買ったら、とてもおい

○ふくさやの十万国まんじゅう：ここも行田に来ると店に入り、おみやげを買ってしまう店の一つ。

○十万石の十万石まんじゅう(¥500)：私の好物です。もっとメジャーになっていいはず。



○十万石饅頭(¥500):我が家のお土産の定番になりつつあります。

○十万石饅頭:さっぱりしていて美味しい。名物で良いと思います。

○十万石のさきたま餅:会社へのお土産に日持ちのする。

○十万石本店のはにわサブレ:ほほえましい形態。おまけでくれたまんじゅうは美味しかった。

○はにわサブレ:形からしてあまり無いので老若男女ウケが良かったです。

○忠次郎蔵のもりそば、ゼリーフライ(¥600 ):毎回食べていますが飽きません。

○忠次郎蔵のもりそば、ゼリーフライ(¥600 ):定番。

○忠次郎蔵の蕎麦:初めて入った蕎麦屋では大抵もり蕎麦だから、メニューが分かりやすいのも良かった。

のどごし良く一気に平らげました。

○忠次郎蔵でお蕎麦:とてもおいしかったです。町家の雰囲気も良かった。

○忠治郎蔵のそば:とても美味しい

○忠次郎蔵の蕎麦のお菓子:買ったものではないがお昼に出された蕎麦のお菓子、美味しかった。購入可能なのか？

○深町フライのやきそばフライ:ボリューム満点腹いっぱい、地元のお母さんたちのたまり場です。

○深町フライ:質量ともに満足。むしろ大盛りは後悔した。

○フライ+焼きそば(忠次郎蔵の隣の店にて):昼食で食べたのですが、非常にボリュームがあり学生であっても十分すぎるほどの量でした。また行田に来た際には食べに来たいと思います

○今津蔵の脇のゼリーフライ(¥100 ):お茶の接待が気持ちよく、ついでに買ってしまいました。

○今津蔵の脇のゼリーフライ(¥100 ):ゼリーフライの厚みがありました。お茶のおもてなしもううれしい。

○今津蔵のゼリーフライ

○ゼリーフライ:朝、足袋蔵まちづくりミュージアムの受付でスタンプラリーの前にゼリーフライを買いその場で食べた。特においしいとも思えず、なぜこれが名物なのかと不思議だった。足袋産業が盛んだった時代、仕事の合間に食べたということは後で知った。知って食べたらまた違った印象だったと思う。

○ゼリーフライ、蕎麦、パン:ゼリーフライは行田の宝だと思う。あとは、歩きながら食べられる和製のファストフード店がもっとあったら良いと思った。団子屋とか。そしてゼリーフライも店先で売るなど、店の中まで入っていかずに買える仕組みが欲しい。

○大沢商店横の洋菓子店の武蔵野ポテト:つられて買ってしまいました。

○ルーブルの武蔵野ポテト:まだ冷蔵庫に眠っています。

○こきゅう:チーズ味だからか甘すぎず美味しかったです、ナボナに似ている



- 忍城サブレ:味は昔ながらのクッキーな感じで美味しい。でも開封したらどこが忍城なのか分からないので忍城マークを焼き印するとか、形を工夫するなどしても良いと思いました。
- こはぜストラップ:紺色を買いました。携帯の色が渋いため浮かれたストラップより合ってたです。(個人的には道ばたでいただいた忍城模様のこはぜを着けたい)
- 閑居の抹茶ケーキ&珈琲:生クリームが甘すぎずペロリと頂きました。
- 閑居でのコーヒー:落ち着いた場所でした。ケーキもおいしかった!
- 閑居の紅茶
- 閑居の紅茶と抹茶ケーキ:紅茶だけのつもりがつい頼んでしまいました。しつこくなく美味しい。
- 足袋とくらしの博物館の足袋のラベル:セットにすると、もっと売れそう。
- 靴下:とにかく安い。
- 奥貫蔵の楽屋足袋のたびお守り:行田らしい工夫。
- 奥貫蔵横のホットコーヒ:蔵巡りのアクセントになって良かった
- 奥貫蔵脇のホットドッグ:おなか空いたので食べました。グッドです!
- ホットドッグ:大竹さんのを試食)……朝ご飯抜かして一本食べても良かったです。
- 小川源右エ門蔵の地酒益川:同じ名前の知人への土産
- 古い缶入り味の素:懐かしさでつい買ってしまった

#### (4) あなただったら、行田の魅力をどう伝えるか? 行田を知らない人にどう説明するか の提案 (キャッチコピー風に)

- 古代から現代までの歴史探訪も、近代産業遺産も、そしてB級グルメも楽しめるまち。
- 足袋のまち行田ーその歴史と資産を歩いて体験できるー
- 歴史をたどれる街、庶民の味を楽しめる街、行田。
- 「足袋蔵をを今に活かすまち行田」 蔵を、普段の生活や商売に何気なく使っているまち
- 足袋蔵を今に活かす城下町
- 足袋の歴史を今に伝えるまち
- ホッと安心できる足袋と蔵の街、行田
- スローな、暖かい空気を吸おう。
- 「ゆっくりと時間の流れるまち行田」 市街地は400年前の面影が残り、いい意味で時代に取り残されたまちといえると思います。まさしく坂田さんのおっしゃる「いぶし銀」のまちという表現がぴったりだと思います。
- 味わってください 古代の息吹 戦国の躍動、明治昭和のほの懐かしさ そして今の暖かさ…
- おじいちゃんや、おばあちゃんが育ったころの懐かしい日本にあえる街 行田では、蔵も横町もみんな現役です
- のぼうの城の街 石田三成がまいった～と言った(?)街
- 坂の上の雲を足袋で支えた城下町
- 行田は城下町 そして商人の街 彼とっしょに蔵めぐり(^\_^)vしてね!
- 路地裏が楽しい哀愁のまち
- 『埼玉の風は行田から』(古墳、お城、産業など、埼玉県多くの歴史が始まる土地である)
- 小旅行気分商店街でお買い物 ちょっとそこまで古墳に登ってきます。
- 都会の生活に疲れた人、また小さい子供たち、週末でかけてみませんか。歩き始めると歩道

の童(銅製?)が迎えてくれます。街のいたるところに立っています。道行く人に声をかけて下さい。行田人はやさしく接して下さい、元気になります。

○普段:かつて日本一の足袋の生産地で、今も足袋蔵がひっそり佇む街。イベント時:まちじゅうが博物館、まちじゅうが市場。

○10年後が楽しみな街

#### (5)今後の行田のまちづくりを担う、或いは担うことが期待される地元NPOや商工会議所、行政に何を期待しますか？

##### ①NPOぎょうだ足袋蔵ネットワークへのコメント

○よくぞここまで活動を積み重ね展開してきた、と感心しました。足袋蔵という行田に固有の資源に着目し、これを活かし、多くの人たちと一緒にここまでのイベントや保存活動、普及活動に取り組んで来ています。特に、安易に観光地を目指すのではなく、まずは足袋蔵の価値を、地元市民自身が認識し、大切にし、活かし、楽しむことから始めているのが、とても素晴らしいです。上滑りせず、より深い価値を掘り下げた街になっていくでしょう。

○ぎょうだ足袋蔵NWのまちづくりの思いが、市民の方々へ浸透してきているように感じました。

○大変活発に活動されていて、すばらしいと思います。

○すばらしいお仕事をどうもありがとうございます。

○多くの市民が関われるような展開をすると、足袋蔵から始まったまちづくりが広がっていくと思う。

○フットワークの良さを活かしながら、是非とも息の長い活動を続けて欲しいです。メンバー構成など詳しいことは分かりませんが、行田以外の人を積極的に取り込んでいったらどうでしょうか？

○背伸びをせず着実に進めていく方針がいいと思います。

○とにかく、続けて下さい。

○熱心に粘り強く続けていらっしゃることに敬意を表します。着物姿の団体との連携も素晴らしい。こうした関係団体との活動の輪が広がり相乗効果が生まれることを願っています。さらなる地元自治会や他のNPO、市民団体等との連携はどうなのでしょうか？

○熱心な取組に敬意を表します。頑張り過ぎて、息切れしないようにして下さい。

○デザインの影響力ってきつと思っている以上にスゴイんだと思います。朽木さんが、ただ作ればいい、というサインはやだ、っておっしゃっていたの共感します。街の魅力アップに繋がる、デザイン性の高いサイン網が欲しいです。

○メールで街の様子を送るなど、もっともっと行田を宣伝して下さい。

○行田の街は市民が元気で賑わいの創出や活性化に積極的であるので、まだまだ面白い企画が出てくると思います。そのため、NPOの方にはもっと市民を取り込んでNPOを中心に行田を応援する輪を広げて行って欲しいです。

##### ②商工会議所へのコメント

○足袋蔵を活かしたまちづくり(保存活用、イベントなど)を地元経済の活性化につなげるような仕掛けをしてもらいたいです。今回のように、各商店が協賛セールをするのは、とてもいいことだと思います。もっともっと商売面で、どん欲になってもらいたいです。

○大通りの店舗の方々ももっとスタンプラリー等への参加が増えるよう頑張ってください。

○地元商業全体を有機的に結び付ける役目を、巧みに担って欲しいと思います。店舗を経営している人達が一体となって地元を盛り上げていけるよう、うまく仕掛けて下さい

○協賛店が増えたのは素晴らしいと思います。地元の方のためのお店としてアピールしてくれるとかえってそれが共感を呼ぶと思います。

○協賛店はよい。お店の内容はもっと工夫が欲しい。

○坂田さんの頑張りに拍手です。「フレイフレイさ・か・た！」

○足袋蔵ネットワークとの協働は大変良いと思います。

○とにかく、応援して下さい。

○商工会議所が元気な街は可能性があると思う。多くの会員がこのイベントに参加するとよいと思う。

○イベントでは蔵周辺に座る場所が用意されていたところは空間的・景観的にとても良かったと思います。普段から官民境界付近に落ち着く縁側的なスペースがあると商店街の景観としてもっと魅力的になるような気がします。

○商工会議所やネットワークの皆様が、和服や作務衣を着てらしたのが、すごく魅力的で良かったです。また楽しそうで、熱気があっていいな～と思いました。緑を増やす活動もされている、とお聞きしてすごいな～と思いました。ぜひ魅力あるお店や商品たくさん開発してください。じいちゃん連れて行きます！行田へ行ってくると、日々忙しさにまぎれて雑になっている自分の暮らしを見直したくなる、そんな街でいてほしい！また、イギリスなどでは、タウンモビリティといって、商店街のスポットに、電動車いすを用意しておいて、必要な方がいらっしゃったら、貸し出したり、ボランティアの人がいっしょに買い物つきあたりする制度があるそうです。そこまでしていただかなくても、普通の車いすが安い料金でお借りできれば、長時間歩くのが難しい高齢の方も、家族がいっしょだったら蔵めぐりを楽しめると思います。また車椅子の貸し出し係の方が、和服や作務衣なんか着てらしたら最高！

○蔵を持っている店、持っていない店があるなかで一律に力を入れづらいところがあるのでしょうか。

○駅前広場が寂しく、有効活用がされていないように感じるので、駅からまちづくりミュージアムまでの通りに賑わいを持たせるように改善して欲しいです。

### ③市役所など行政へのコメント

○行政ののりがもう一歩といった感じがしました。市の方もこうした企画と一緒に楽しめるようになるといいですね。

○中心市街地への行政の取組が見えない。これだけNPOや商工会議所が足袋蔵などの歴史遺産を活かす取組をしているのですから、行政はココをサポートしていますとアピールして欲しい。忍城下の街の歴史的資源の掘り起こし、情報発信も行政の役割だと思います。

○景観の整備に力を入れるとともに、民間の活動に対する後方支援を強力に推し進めて欲しいと思います。あとは「(仮称)中心市街地活性化室」みたいな専門の部署を設置(人員は最低2人)して、フィルムコミッションとかNPOとの連携とか、その辺のことをフットワークよく面倒見られるよう、若干の組織改編をお願いしたいです。

○視点場を作るという意味では景観整備は行政にかかっています。特に道路のトンカチ部隊が

景観デザインをもっと意識する必要があると思います。

○自ら進んで街のために汗をかいている市民を支える政策を展開して欲しい。

○まちづくりの主役は市民なので。行政はこれをしっかり応援してもらいたいです。足袋蔵に関する活動は、着眼点、内容、継続性など、とても水準が高い活動です。中心街の活性化対策のメインに据えるべきだと考えます。そして、NPO行田足袋蔵ネットワークの活動を支援するとともに、行政にしかできないこと(施設整備関係など)にきちんと取り組んでもらいたいです。(例)蔵の保存修景に関する助成、蔵めぐり案内板の設置、無料休憩所の増設など

○法律や事業の情報を素ばやくわかりやすく流して、強力にバックアップしてください。

○市は街角の案内板の設置など、やれることをやってほしい。

○HPの充実をぜひお願いします。

○ボンネットバスを路線バスなどで日常的に走らせることが出来たらもっと魅力的な街になると思うので、今後も街の魅力作りに尽力してもらいたいです。

○とにかく、黙ってついて行って下さい。

○担当課長を見捨てないようにお願いします。

○脇役、側面支援に徹しましょう。「行政が中心になってやるまちづくりにははろくなものがない」と、高松丸亀町商店街の理事長さんも言っていました。(全国の再開発事業を研究して回った結果、失敗しているのはいずれも行政が三セクなどで関わっているものだったそうです)

#### **(6)その他、今回の企画で気づいた点など(自由記入、ただし、前回、前々回参加の方は、それと比較しての感想も記入。)**

○毎年新たな工夫を凝らしているところがすばらしいと思います。ボンネットバスも乗りたかったです。また和服姿の来訪と、三味線の演奏を組み合わせた企画も面白かったです。(H.K)

○前々回と比べ、行田のまちの歴史について住民方々からお話がきけたのが、今回の大きな収穫でした(Y.I)。

○初めて行田に行きました。ぐるぐる回って面白かったです。のんびり歩くのにちょうどよい街です。これからは、機会を作って出かけます。きっかけを作ってください感謝します。(E.K)

○今回初めて NPO などが主催するまちあるきのイベントに参加したのですが、一般の市民の参加が思った以上に多く、驚きました。専門家やそれに興味のある人のみが参加するのではなく、一般の市民の参加を促し自分のまちに対して関心を持ってもらうことが良い街を作っていくには重要であると感じました。(K.S)

○自転車を用意しても良いのではないかな。

○街角で一休みできるお休みどころがあってもよい。今津さんの隣のようなところ。

○実際の町中で、昔の堀を明示するとおもしろいと思う。

○蔵以外の見所がほしい。神社・お寺など

○市民の中で、絵心のある方の展示があってもよい。(例:熊谷・成田用水沿いの川沿い展)

○今回は、売るところがこれまでよりも多かった。それなりに評価できるが、節奏が無くならないように注意したい。

○参加者の声を聞く点検ボード(街角で出会った良いところを教えてくださいボード)の設置をミュージアムに置く。(以上、A.W)

○いろいろな蔵の中を見ることが出来、また、最盛期の行田および足袋産業の様子がわかって良かった。

○蔵を開けるといろんなものが出てくると思われるので、毎年、行って欲しい。

○ボンネットバスの運行は注目を集めるし、蔵巡りというイベントに合っていると思った。

○他の足袋産業集積地と交流しても面白いかもしれない。(以上 Y.K)

○地元商店のサービス企画がとても多くあったことに感動した。商工会議所さんの努力と地元の方々のおもてなし心が伝わります。

○ミュージアムを起点としては、今回初めての開催かと思います。実際に歩いてみるとちょうどまち歩きの出点としてふさわしく、狙い通りだと思いました。市内の案内所としてどのように活かせるかが今後の課題でしょうか。(以上 M.K)

○何事もそうだが、結局「人間力」が全てだと思う。今回は、地域の頑張る人を多く知れて良かった。

○前回は、古墳のところにボランティアがいたが、街なかを案内できるボランティアが必要だと感じた。県の地域政策課が、観光振興による地域の魅力アップのため、「地域元気アップ協働事業」(補助率1/2以内、補助限度額1000万円)を創設するようなので、活用しては？(以上 S.O)

○意見交換会でも申し上げましたが、回を追う毎に充実してきていると思います。人出も多くなってきたし、なんといっても迎える側の人たちの意識がずいぶん変わってきているのではないのでしょうか。

○正直言って、蔵の傷みが非常に気にかかりました。耐震補強のことを指摘された方もいましたが、地震もそうですが、ちょっと大きな台風が来たら…。

○「蔵」を中心としつつも、蔵を持たない店や家も、まちづくりに関心を持てるような、まちづくりのコンセプトをもったらどうでしょうか。蔵のみでない、まちづくり。大正～昭和初期の雰囲気を出し出す町並みなど。(以上、T.H)

○ただ歩いていると無口になりがちですが、スタンプラリーだと地元の人と話せたり、お店に気軽に入れるので楽しさアップです。

○足袋は素敵なのが沢山有りましたが、靴下みたいに履けるのが有ると即買いなのになあと思いました。

○トイレの場所がもう少し多かったら嬉しいです

○ ボンネットバスに乗るのは次回のお楽しみにします

○ スタンプラリーをやっている他の人達とすれ違う時「こんにちは～」と交わすのが良かったです。

○スターダストレビューはボーカルの根本さん意外は羽生、熊谷なので根本さんだけでは押しが弱いかもしれません。ファンの人は根本医院とフライだけで羽生市や熊谷へ移動するそうです。(以上M、H)

○スタンプラリーのイベントで頂いた花が今満開です、どうもありがとうございました。(Y.J)

○(景観的に)残念な点とした気になったのは以下のような場所でした。(以下、Y.J)



←・保泉商店 入り口付近の粗大ゴミ(冷蔵庫、テレビ)が見苦しくて残念。

→・大澤蔵 建物の前面に街路樹と電柱があり、景観を邪魔しています。



←今津印刷所 アーケードと街路樹が景観を邪魔しています。



←・大通り シャッターが閉まっている店が多い。せっかく電線地中化されているのですが、歩車道境界の立ち上がり(街路灯、街路樹、ファニチャー類)が非常に多いのが景観的には残念です。ちょっと乱暴な意見ですけど、街路樹は無いほうがいいのかもかもしれませんね。

○今回、ひと通り歩いてみて初めて気が付いた点がありました。それは何かというと「市役所周辺の空間の魅力」です。まちあるきで旧市街の鍵型の道をゴチャゴチャ歩いてきて、市役所の

前に不意に出てくる。するとその途端、急に視界が開けて「おっ？」となります。行田の中にいる自分でさえそうなのだから、外から来た人ならもっと強烈な印象を受けるでしょう。なので、あの市役所周辺に対して、もっと水・緑を増やしたり道路を綺麗にしたり、景観的な整備ができれば、まち全体の印象はガラリと変わると思います。水城公園のイメージをそのまま持って来られればベストです。それによって忍城址との一体感も生まれますし。

とにかく、今の市役所周辺はかなり無機質で殺風景なので、「昔この場所に城郭や堀(ていうか沼)があったんだ」ってことを、頭ではなく視覚でダイレクトに認識できるような景観の整備が必要だと思いました！(N)

○前回に比べて、中心街を歩き回ったのが、とても楽しかったです。蔵が開かれ、いろいろなイベントが用意されていて面白かったです。また、ボンネットバスに乗ることができたのは、とても貴重な体験でした。朽木さん、お忙しい中、私たちのために時間を割いて下さり、本当に感謝します。今後とも、行田の足袋蔵を活かしたまちづくりが、市民の間に広がっていくことを願っております。またぜひとも、訪れたいと思います。(追伸)当日のスタンプラリーの景品(花苗)ですが、名古屋のベランダで開花しましたので、福岡の自宅に持って行って植えました。仲間のペチュニアと並んで美しく咲いています。(R.O)

(コーディネーターより)

○前々回の1回目の企画では、足袋蔵を中心に旧市街地を見て回り活性化策について意見交換をし、前回の2回目の企画は、忍城城下町の遺構と郊外の古墳群を見て歩きました。そして今回は、蔵めぐりスタンプラリーで開かれた16の蔵やお店、工場をたどり、地元の皆さんと交流ができ、行田を満喫できました。1回目の企画の際どう活用しようかと話されていた「栗代蔵」、2回目の企画では「足袋蔵まちづくりミュージアム」として改装オープン、今回はそこを拠点に蔵めぐりを企画してしまう「NPO ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」のスピードとパワーに本当に感心してしまいます。今回の活動報告は、(4)行田紹介のキャッチコピー、(5)各まちづくり主体へのエールを出し合い、NPO ぎょうだ足袋蔵ネットワークや商工会議所、市役所の皆さんの活動に、わずかでもお役にたてばと願ってまとめてみました。連続3回もご案内、ご協力いただきありがとうございました。(M.F)

(NPO ぎょうだ足袋蔵ネットワーク 朽木さんから)

○ 報告を頂き、励まされる反面、まだまだプレゼンテーションが不足していたと思う事もあり、今後の取組みの参考にさせて頂きたいと思います。

忠次郎蔵がオープンして丁度5年間、少しずつですが方向性も見えてきたところだと感じています。慌てず焦らずゆっくりと、最終的には「人づくり」に尽きるのだと思っています。自分のまちに誇りを持ちたい人が多く現れてくれる事を望んで、我々は行田の近代化遺産の活用を通してその切っ掛けづくりをしているのだと。そして人が育たない事には継続も難しいのだと。

色々なご意見有難う御座います、今後も頑張っていきたいと思っています。



▲イサミコーポレーション前にて



▲閑居2階での意見交換会